



ほけんだより



9月号

令和8年9月

キッドワールドこども園

園長：高津 宏児

看護師：飯倉 ゆみ

外に出ればまだまだ汗ばむ季節ではありますが、少しずつ秋のおとずれを感じているこの頃です。プールも終わり、子どもたちは有り余る体力でお散歩や戸外遊びを思いっきり楽しんでいます。この時期は、夏の疲れや朝晩の気温差などで、体調を崩しやすくなります。しっかり休息をとり、疲れを取り除き、衣類で体温調節をし、体調管理に気をつけましょう。



9月9日は救急の日

家庭内で起こりやすい事故として、誤飲があります。たばこの吸い殻・電池・薬など、飲み込んでしまうと危険なものは、子どもの手の届かない場所に置くことが基本です。また、お風呂での溺水も多く、バスタブに水を貯めないことや、浴室に鍵をかけるなどの対策が必要です。

子どもはあっという間に大きくなり、歩きはじめ、走り、よじ登り、そして全てのものに興味を持つようになります。自分の子どもの発育を知り、今どれくらいのことが出来るのかを考え、子どもを事故から守りましょう。

身近にある危険なものを見直してみましょう。

- ① 子どもの手の届くところに置いてはいけないもの
(薬・電池・洗剤・たばこ・はさみ・ポットなど)
- ② 踏み台になるものをベランダに置かない
- ③ コンセントはいたずらできないようにする
- ④ バスタブに水を貯めっぱなしにしない など



●暑い時期は、水の事故が多発します。

乳幼児がおぼれる場所として最も多い場所は、**自宅の浴槽**です。そして、**静かにおぼれます**。



おぼれている子を発見したら、
裏面にある、心肺蘇生法
を行ってください。



子どもから目を離していませんか？

自宅浴槽での溺水事故予防に有効な対策としては…

- 子どもだけで入浴させない
- 子どもと入浴中に電話が鳴っても出ない
- 複数の大人が関わる
- 風呂の残し湯をしない
- 入浴しないときは、風呂の扉に鍵をかける
- 風呂に近付けないように柵を作る

乳幼児をお風呂に入れている時、水遊びをさせている時は、決して目を離さない!!

心肺蘇生法



1. 安全の確認

場所に応じた周囲の安全確認を行う。(例:車などが来ないかなど)

2. 肩を叩いて意識の確認をする

「大丈夫ですか?」「○○ちゃん」など声を掛けながら肩を叩いて反応をみる。

3. 助けを呼ぶ

大声で協力を求める。「誰か来て下さい」「人が倒れています」など。

・救助者が自分一人の場合は、先ず 119 番に電話する。

・協力者がいる場合は、119 番への通報と AED を持ってくるよう指示する。

4. 呼吸確認

胸と胸部の動きを見て、呼吸の確認をする。→呼吸していなければ、胸骨圧迫を開始する。

5. 胸骨圧迫

胸が約 5 cm(小児:胸の厚みの 1/3)沈む程度の強さで、1 分間に 100~120 回のテンポで押します。

6. AED で電気ショック

倒れている人の体から離れてください。

※AED は届いた時点で使える準備をし、AED の音声ガイドに従ってください。

救急隊に引き継ぐまで、心肺蘇生(5・6)を続けましょう。



皆さんは、ケガをした時どのように処置をしていますか？

以前は…傷口を消毒する。

現在は…傷口を水道水でよく洗い、傷口が乾燥しないようにする。

擦過傷や浅い切り傷は、消毒液を使いません。

消毒を使うと、ばい菌をやっつけると同時に傷を治そうとする細胞も一緒にやっつけてしまう可能性があります。

傷口が乾燥しないよう(湿潤療法)にするには…

- ・ラップにワセリンを塗り、傷口を覆う。
- ・ハイドロコイドなどの成分のついた創傷被覆材を使用する。(キズパワーパッドなど)

こども園ではケガの状況にもよりますが、消毒液はなるべく使わない方法を取り入れています。

湿潤療法に向かない傷

- ・化膿している傷
- ・出血が激しい傷
- ・傷口がぱっくり開いている傷

このような場合は病院を受診するようにしましょう。